

## Ⅶ 保険会社の運営

### 1 リスク管理の体制

25～26ページをご覧ください。

### 2 法令遵守の体制

23～24ページをご覧ください。

### 3 保険業法第二百二十一条第一項第一号の確認（第三分野保険に係るものに限る。）の合理性及び妥当性

第三分野保険の保険事故発生率に関する長期的な不確実性に対して、責任準備金の積み立ての適切性を確認するため、当社では毎決算期にストレステストを実施し、将来の保険事故発生率が通常想定される範囲を超えて悪化した場合であっても、予め設定された保険事故発生率によってカバーされていることの検証を行っています。

ストレステストに使用する保険事故発生率等は、1998年大蔵省告示第231号及び社内規程に基づき合理的に設定し、その水準は当社の実績からみて妥当なものとなっています。

ストレステストを実施した結果、商品ごとに予め設定した予定保険事故発生率は、将来の保険事故発生率に係る十分なリスクをカバーしており、第三分野保険に係る2012年度末責任準備金が、健全な保険数理に基づいて積み立てられていることを確認致しました。また、2000年6月金融監督庁・大蔵省告示第22号に定める負債十分性テストの対象となる保険契約の区分はありませんでした。

### 4 指定生命保険業務紛争解決機関の商号又は名称

生命保険のご相談、苦情に関する外部機関等へのお申し出について

アクサ生命は、苦情のお申出をされているお客さまに対し、誠心誠意解決に向け、努めてまいります。万一弊社がお客さまのご期待に添えなかった場合には、お客さまのご判断にて、中立・公正な立場での第三者を交えた解決を図るべく、外部機関等にお申し出いただくこともできます。

当社の生命保険商品に係る指定紛争解決機関は（社）生命保険協会です。

### 5 個人データ保護について

27～28ページをご覧ください。

### 6 反社会的勢力との関係遮断のための基本方針

29ページをご覧ください。

## Ⅷ 特別勘定に関する指標等

### 1 特別勘定資産残高の状況

（単位：百万円）

区 分	2011年度末	2012年度末
	金 額	金 額
個人変額保険	143,659	172,875
個人変額年金保険	616,118	763,093
団体年金保険	—	—
特別勘定計	759,777	935,968

（注）個人変額年金保険の特別勘定資産残高には、株価指数連動追加年金付予定利率市場連動型年金保険の追加年金部分の特別勘定資産が含まれています。

## 2 個人変額保険及び個人変額年金保険特別勘定資産の運用の経過

### -1 運用環境

#### 【日本株式市場】

日本株式市場は、大きく上昇しました。東証株価指数（TOPIX）は前期末比+21.11%上昇の1,034.71ポイント（前期末は854.35ポイント）で終了しました。

欧州債務問題の懸念などから下落して始まり、6月にはギリシャの再選挙結果などを受け上昇に転じましたが、揉みあう展開が続きました。11月以降は、衆議院選挙後の新政権による大型景気対策や日銀への金融緩和圧力などから反転し、大幅に上昇しました。1月以降は、キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから揉み合う局面もありましたが、政府の大規模な緊急経済対策や円安の進行、日銀正副総裁人事の同意などを受け金融緩和期待が高まったことなどから上昇して、今期を終えました。

業種別（東証33業種）では、新政権のデフレ脱却策への期待から「不動産業」（前期末比+73.42%）が最も上昇した一方、大型増資やボーイング787の運航停止等が嫌気された「空運業」（同△25.38%）が最も下落しました。

#### 【外国株式市場】

米国株式市場は、上昇しました。NYダウは前期末比+10.34%上昇の14,578.54ドル（前期末は13,212.04ドル）で終了しました。

欧州債務問題の懸念などにより下落した後、9月頃までは追加金融緩和の期待やFOMC（米連邦公開市場委員会）の量的緩和策の決定などから上昇基調で推移しました。11月中旬頃までは、国際通貨基金（IMF）の世界経済見通しの下方修正などにより下落基調で推移しましたが、1月には「財政の崖」問題が回避されたことなどにより上昇し、その後も良好な経済指標などから上昇基調で推移しました。

欧州株式市場は、上昇しました。欧州債務問題を巡る進退や良好な経済指標などを背景に、概ね米国株式市場と同様の動きとなりました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比+11.15%上昇、仏CAC40は同+8.98%上昇、独DAXは同+12.21%上昇となりました。

#### 【日本債券市場】

日本債券市場は、大幅に金利が低下しました。新発10年国債利回りは0.56%となりました（前期末は0.99%）。

8月に国内消費税増税法案を巡る政局の混乱などから金利は上昇（価格は下落）する局面もありましたが、欧州債務問題などによる世界的なリスク回避姿勢などから金利は低下基調（価格は上昇）で推移しました。12月中旬以降は、大規模な財政出動による国債増発懸念などから金利は上昇に転じましたが、1月以降は金融緩和期待の高まりや、キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから、金利は大幅に低下しました。

日銀は、政策金利である無担保コール翌日物金利の誘導目標を年0.0%～0.1%程度で推移するよう金融市場調整を行いました。無担保コール（翌日物）は0.1%程度の水準で推移しました。

#### 【外国債券市場】

米国債券市場は、金利が低下しました。米10年国債利回りは1.85%となりました（前期末は2.21%）。

7月にかけて欧州債務問題への懸念などから金利は低下基調（価格は上昇）で推移した後は、良好な経済指標などから金利は上昇（価格は下落）する一方、追加金融緩和観測などから金利は低下するなど、今期後半は揉み合いながらも上昇基調で推移しました。

欧州債券市場は、金利が低下しました。独10年国債利回りは1.29%となりました（前期末は1.79%）。

欧州債務問題を巡る欧州中央銀行（ECB）やユーロ圏各国当局の政策対応などから、今期を通して金利は揉み合いながら推移しました。

FRBは、フェデラル・ファンド（FF）金利の誘導目標を据え置き、年0.00%～0.25%を維持しました。ECBは7月に政策金利を0.25%引き下げ、年0.75%としました。

#### 【外国為替市場】

外国為替市場は、円高基調で推移した後、今期後半にかけ円安が加速しました。

米ドル／円相場は、前期末比11円86銭円安ドル高の1ドル＝94円05銭となりました。（前期末比+14.43%上昇）

今期前半は、欧州債務問題への懸念などから円高基調で推移しました。今期後半は、「財政の崖」問題が回避されたことや、衆議院選挙後の新政権のもとで日銀に対する金融緩和圧力が一段と高まるとの思惑、加えて日銀総裁の早期辞任により金融緩和が前倒しで実施されるとの観測などから円安が加速しました。

ユーロ／円相場は、前期末比10円93銭円安ユーロ高の1ユーロ＝120円73銭となりました。（前期末比+9.95%上昇）

今期前半は、ECBによる政策対応への期待などから円安が進行する局面もありましたが、欧州債務問題への懸念などから円高基調で推移しました。今期後半は、キプロス救済を巡るユーロ圏の混乱などから円高となる局面もありましたが、ギリシャ支援協議の合意や日銀に対する金融緩和圧力が高まるとの思惑などから円安が加速しました。

### -2 運用内容

変額保険・変額年金保険の運用は投資対象資産毎に設けた特別勘定において、主として投資信託への投資を通じて行っております。当期（2012年4月～2013年3月末）を通じて、各特別勘定ともに投資対象となる投資信託の組入比率を概ね高位に維持しました。

### 3 個人変額保険及び個人変額年金保険の状況

#### -1 個人変額保険

##### ①保有契約高

(単位：件、百万円)

区 分	2011年度末		2012年度末	
	件 数	金 額	件 数	金 額
変額保険(有期型)	95,183	1,365,253	100,214	1,476,624
変額保険(終身型)	121,413	818,071	116,347	780,749
合 計	216,596	2,183,325	216,561	2,257,374

##### ②年度末個人変額保険特別勘定資産の内訳

(単位：百万円、%)

区 分	2011年度末		2012年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・コールローン	1,294	0.9	5,934	3.4
有価証券	136,322	94.9	160,585	92.9
公社債	—	—	—	—
株 式	—	—	—	—
外国証券	20,308	14.1	23,176	13.4
公社債	—	—	—	—
株式等	20,308	14.1	23,176	13.4
その他の証券	116,013	80.8	137,409	79.5
貸付金	—	—	—	—
その他	6,042	4.2	6,354	3.7
貸倒引当金	—	—	—	—
合 計	143,659	100.0	172,875	100.0

##### ③個人変額保険特別勘定の運用収支状況

(単位：百万円)

区 分	2011年度	2012年度
	金 額	金 額
利息配当金等収入	749	1,605
有価証券売却益	0	333
有価証券償還益	—	0
有価証券評価益	1,800	23,340
為替差益	—	—
金融派生商品収益	—	—
その他の収益	—	—
有価証券売却損	944	155
有価証券償還損	—	—
有価証券評価損	—	—
為替差損	—	—
金融派生商品費用	—	—
その他の費用	191	143
収支差額	1,413	24,980

##### ④個人変額保険特別勘定に関する有価証券等の時価情報

###### a. 売買目的有価証券の評価損益

(単位：百万円)

区 分	2011年度末		2012年度末	
	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益
売買目的有価証券	136,322	1,800	160,585	23,340

###### b. 金銭の信託の時価情報

該当ありません。

###### c. 個人変額保険特別勘定のデリバティブ取引の時価情報（ヘッジ会計適用・非適用分の合算値）

該当ありません。

## -2 個人変額年金保険

### ①保有契約高

(単位：件、百万円)

区 分	2011年度末		2012年度末	
	件 数	金 額	件 数	金 額
個人変額年金保険	108,705	672,135	118,337	770,099

### ②年度末個人変額年金保険特別勘定資産の内訳

(単位：百万円、%)

区 分	2011年度末		2012年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・コールローン	3,793	0.6	5,117	0.7
有価証券	604,497	98.1	748,631	98.1
公社債	—	—	—	—
株 式	—	—	—	—
外国証券	51,048	8.3	58,021	7.6
公社債	—	—	—	—
株式等	51,048	8.3	58,021	7.6
その他の証券	553,448	89.8	690,610	90.5
貸付金	—	—	—	—
その他	7,827	1.3	9,344	1.2
貸倒引当金	—	—	—	—
合 計	616,118	100.0	763,093	100.0

(注) 特別勘定資産には、株価連動追加年金付予定利率市場連動型年金保険の追加年金部分の特別勘定資産が含まれています。

### ④個人変額年金保険特別勘定に関する有価証券等の時価情報

#### a. 売買目的有価証券の評価損益

(単位：百万円)

区 分	2011年度末		2012年度末	
	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益
売買目的有価証券	604,497	19,252	748,631	81,178

#### b. 金銭の信託の時価情報

該当ありません。

#### c. 個人変額年金保険特別勘定のデリバティブ取引の時価情報（ヘッジ会計適用・非適用分の合算値）

##### イ 差損益の内訳（ヘッジ会計適用分・非適用分の内訳）

(単位：百万円)

	金利関連	通貨関連	株式関連	債券関連	その他	合 計
ヘッジ会計適用分	—	—	—	—	—	—
ヘッジ会計非適用分	—	—	△ 586	—	—	△ 586
合 計	—	—	△ 586	—	—	△ 586

(注) ヘッジ会計非適用分の差損益は、損益計算書に計上されています。

#### ロ 金利関連

該当ありません。

#### ハ 通貨関連

該当ありません。

### ③個人変額年金保険特別勘定の運用収支状況

(単位：百万円)

区 分	2011年度	2012年度
	金 額	金 額
利息配当金等収入	530	3,823
有価証券売却益	2	243
有価証券償還益	—	—
有価証券評価益	19,252	81,178
為替差益	—	0
金融派生商品収益	587	1,222
その他の収益	—	—
有価証券売却損	1,227	408
有価証券償還損	—	—
有価証券評価損	—	—
為替差損	0	—
金融派生商品費用	—	—
その他の費用	933	791
収支差額	18,212	85,268

(注) 運用収支には、株価指数連動追加年金付予定利率市場連動型年金保険の追加年金部分の運用収支が含まれています。

ニ 株式関連

(単位：百万円)

区分	種類	2011年度末				2012年度末			
		契約額等		時価	差損益	契約額等		時価	差損益
			うち1年超				うち1年超		
店頭	オプション 買建 コール	80,641 (7,870)	80,641	5,977	△ 1,892	76,375 (7,452)	76,375	6,865	△ 586
合計					△ 1,892				△ 586

(注) ( )内には、貸借対照表に計上したオプション料を記載しています。

ホ 債券関連

該当ありません。

ヘ その他

該当ありません。

## IX 信託業務に関する指標

該当ありません。

## X 保険会社及びその子会社等の状況

該当ありません。

VIII

IX

X